

第9回和泉デイサービスセンター運営推進会議 会議録

事業所名	和泉デイサービスセンター わくわく館
開催日時	令和3年5月18日（火） 14時00分～15時00分
開催場所	和泉デイサービスセンター 会議室
参加者	利用者家族 1名 和泉自治会会長 1名 和泉民生委員児童委員協議会民生委員 1名 老人クラブ和泉会会長 1名 大野市健康福祉部健康長寿課 1名 介護支援専門員 1名 大野市社会福祉協議会事務局 2名 事業所職員 2名
議題	① 新型コロナウイルス感染症対策について ② 給食提供の変更について ③ 収支状況等について（コロナの減収） ④ 利用者の状況について ⑤ デイサービスの状況について ⑥ 転倒などの事故について ⑦ 苦情、要望などについて ⑧ 非常災害時の対応について利用者の状況について ⑨ その他
会議録	
<p>① 新型コロナウイルスについて</p> <p>感染症対策については従来の基本的な対策を継続していくとともに絶対に施設内に持ち込まないことを念頭に利用者の皆様の健康と安全第一に、今後も感染防止対策の徹底を図っていく。</p> <p>【利用者対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者はデイサービス利用時間中マスク着用を徹底とする。 ・送迎中は、車内が密閉空間とならないよう窓を開けるなど換気を実施する。 	

- ・利用者は朝の送迎車に乗る前に、本人・家族または職員が本人の体温を測定し、37℃以上の発熱や風邪の症状がある場合は利用を中止し受診を勧める。
- ・毎日の検温等、体調管理を徹底していただき、体調不良の時はかかりつけまたは受診・相談センターへ相談してもらおう。解熱後 24 時間以上が経過しても呼吸器症状がある場合は改善するまで利用中止とする。なお、このような状況が解消した場合であっても、引き続き当該利用者の健康状態に留意する。
- ・利用者家族や利用者本人が、他府県からの人物と接触があった場合は接触から 7 日間はサービスの利用停止とする。
- ・利用者本人や利用者家族が濃厚接触者となった場合 14 日間の利用停止とする。
- ・利用者、職員が 1 名でも感染した場合事業所の営業自粛とする。
- ・利用中は、密にならないように座る位置やベッドの位置を考慮する。
- ・レクリエーション時は、歌うなどの行為は控えるとともに交流事業の受け入れを中止する。

【事業所対策】

- ・施設の玄関には消毒液を設置し、利用者に手消毒をするとともに朝の送迎から入館後必ず手洗い及びうがいを励行する。
- ・施設内では基本常時窓を開け換気を行う。また、冷暖房時には定期的に換気を行う
- ・施設内の手すり、ドアノブ、テーブル、イス等及び送迎車の室内は定期的に消毒を行う。
- ・送迎車の中での座った位置、ホール内で座った位置を記録で残す。
- ・営業時間中のホールの立ち入りは関係者以外、原則禁止とする。また、業者や地域住民の訪問は玄関先などの限られた場所に対応する。

【職員の自己管理について】

- ・職員は出勤前の毎日、自宅で体温測定を実施し 37℃以上の発熱が認められる場合には管理者に報告するとともに出勤を控える。また、37℃以上の発熱がない場合でも風邪の症状(せき、倦怠感、息苦しさ、味覚嗅覚障害)がある場合は同じく出勤を控え管理者に報告する。
- ・出勤時及び勤務時間内は、石鹸での手洗い、消毒液による手指消毒励行するとともに勤務時間内はマスク着用とする。
- ・本社協職員の県をまたぐ移動は、原則として禁止とする。
- ・同居家族や来訪者についても同様の取り扱いとする。

巻寄：大野市内でもコロナが出た際に、接触が少しでもある人間については仕事を休むようにした。各職員も自己管理をしっかりと行うように社協として対応を取っている。

② 給食提供の変更について

- ・これまで利用者への給食の調理業務を施設内で行ってきたが、調理員の退職に伴い和泉地

区内外で新たな調理員の確保に努めたが、地理的問題や条件に見合う人材が見つからず今回は見送りとなった。結果、地元の業者に協力依頼をお願いすることとなり毎月の献立表に従って、昼食用弁当の材料調達と調理及び食器への盛り付けから保温容器への収納を委託することとなる。

今田：最初は高齢者対象の食事として特有の食事の量や、硬さ、大きさなどの問題があったが、徐々に解消され利用者からの評判も良い。食器についてはメラミン製の食器を購入し、使用している。保温容器として発泡スチロール製を使用しており、容器・保温容器の洗浄や消毒はデイサービスにて行っている。また、給食の運搬についてもデイサービスの職員が行っている。運搬中に汁物などはこぼれてしまうことがあるので、ラップをかけてもらうなどの配慮をとってもらっている。食費は1食800円となっている。食品衛生上問題がある為、加工や温めなどはデイサービスでは行わないようにしている。

三嶋氏：食事のメニューはどのように決まるのですか。栄養士の人などが考えてくださるのですか？

今田：食事のメニューは天神デイサービスのメニューを参考に考えている。

木嶋氏：以前あったカレーなどのメニューはもうないのですか？

今田：(食器、保温容器を全員に提示する) 容器の問題などがあり、今のところ提供できる状況にない。今後対応を考えて、提供できるメニューのバリエーションを増やしていければいいと思う。

巻寄：今回、業者には無理を言って提供を委託してもらっているのですが、やはり調理員がいるのが理想的。知り合いの方などでやっていただける人がいたら紹介してほしい。

木嶋氏：電発でも調理員が足りていない。どこの事業所も人員を募集している。

三嶋氏：熱いものと冷たいものを別にした方がいいのではないかと？

今田：保温容器がそれぞれ食器ごとに密封するようになっている。

③収支状況等について

令和2年度4月から3月の収入は26,859,730円(前年比-2,126,610円)の減少。支出は30,135,292円(前年比+5,141,727円)の増加。収支差額は-3,275,562円。収入減の主な理由としては昨年度に比べて平均利用者人数の429人減が大きい。登録者が2名減り、週4~5回利用の利用者が6名から3名となった。さらに大雪による休館、地区で発生したコロナ対応での休館、利用者家族の県外者との接触での自宅待機として合計31日間の利用停止なども影響している。コロナについてはおよそ55万円の減収が計算される。支出増の主な理由とし

ては、開設から 20 年を過ぎ、施設の老朽化に伴う修繕費の増加が考えられる。修繕費は全体で 140 万円の支出となった。（修繕の中の井戸の改修工事については一部経費の改善もあった）

④利用者の状況について

特になし

⑤デイサービスの状況について

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各種団体との交流会は中止となる。

⑥転倒などの事故について

特になし

⑦苦情、要望等について

特になし

⑧非常災害時の対策について

年に 2 回の火災避難訓練実施。

【防災教育の実施】

令和 2 年度より要配慮者利用施設における避難確保計画の作成が義務付けられ、水害や土砂災害時に円滑かつ迅速に避難できる体制作りとして職員への防災教育を実施した。

【非常災害時の地域住人等への応援要請】

職員数、利用者等の状況に状態により避難の実施が困難な場合は、近隣住民、区長会、自主防災組織、企業等や公的機関に協力要請できるよう今後も地域の関係者と連携強化連携協力を高め、非常災害発生時には速やかに避難できるように避難訓練など通して体制づくりを強化していきたい。

⑨その他

今田：デイサービスでもコロナの影響で外出などの制限があり、利用者の方には辛い時期となってしまった。

三嶋氏：レクリエーションとはどういったことをしているのですか。

今田：脳トレやものづくりなどいろんなことを行っている。いつもはもっとバリエーションに富んだことをしているが、感染症対策でできることに制限がかかっている。

竹内氏：各種団体との交流会とあるが、いつもはどういった団体との交流会を行っているのか。

今田：顕彰会、九頭竜たのしみ隊、保存会、保育園などの団体との交流会を例年は行っていた。昨年は一度も交流会を行えなかった。

辻氏：団体との交流会で会うことができないのなら、オンライン上での交流会や録画した映像を見てもらうなどの交流会の形をとってみてはどうだろうか。

今田：今後、実現できないか検討する。

辻氏：調理師がいらないのなら利用者の方に調理してもらうことはできないのか？

森尾：レクの中で漬物作りなど調理を行うことは今までもあったが、コロナの影響でそれができなくなった。給食に関しても利用者が調理をするというのは衛生管理上難しい。

三嶋氏：昼から長く感じるという利用者の方の愚痴を聞いたことがある。

森尾：午前中は入浴で午後はレクリエーションなどになる。自宅で一人いるよりも、デイサービスに来て他者と話をするだけで気分転換になると思う。地域の馴染の方とも会うことができるという特色を生かした施設なので、ケアマネとしてもそういったところをPRして利用を勧めていきたい。

辻氏：65歳以上の割合は？潜在的利用者はどのくらいいるのか？

今田：65歳以上の人口は219名。高齢化率は47%。認定者数は53名となっている。

森尾：介護保険の申請を受けてもヘルパーだけの利用だったり、福祉用具だけの利用だったりがある。また、家族がデイサービスに行ってほしいと思っても本人が利用を拒んでいたりするとなかなか難しい。

辻氏：地区でも独居の人などがいると心配。デイサービスに行っていると安心して見ていられる。

森尾：週に1回でも専門職の目が入ると健康状態などの確認が出来ていいと思う。デイサービスでも週に1回だけの利用の方が5人いる。独居の方の見守りとしては、地区社や民生委員、福祉委員、在宅介護支援センター、大野市社協が行っている高齢者の見守りサービスなどもあり誰かが注意をしている状態を作っている。

巻寄：デイサービスをやりながら和泉の地域福祉の拠点として、社協としてはこれからもこの施設を継続させていきたい。